

障害者の頭頸部・口腔の診察

想定：定期健診患者
対象：「上着を脱げる」2歳6ヵ月以上のレベル、介助歯磨きで開口可能な患者

No	項目	行動目標	評価
1	診察前	①診察への適応性を説明する(レディネス:発達と経験から)。	
		②診察時に配慮すべき障害特性を説明する。	
		③開口保持器、開口器の注意点を説明する。	
2	患者の呼び入れ	・フルネームで呼ぶ。	
3	誘導	安全な誘導ができる	
4	挨拶と確認	・同じ目線で挨拶を行う。 ・本人と保護者へ自己紹介し、行う事を確認する 「こんにちは。臨床実習生の〇〇と言います。これからお口の中をみさせていただきます。」	
5	口腔内の主訴の把握	・「お口の中で痛みなど、気になるところがありますか？」 明確な回答がなければ、保護者・介護者に確認する。	
6	全身状態の変化の把握	「体のことや飲んでいる薬で変わったことはありませんか？」	
7	頭頸部の診察 (必要に応じて行う)	頭頸部(頭部の外傷、頸部リンパ節の触診、圧痛)の異常の有無を確認する。	
8	開口の指示	「お口を開けて下さい」 ・開口しない場合、対応を検討する(介助歯みがき法、K-point刺激法) ・対応しても開口しない場合は、指導医に相談する。 ・必要に応じて開口保持器を使用する。	
9	口腔の診察	①口唇の異常(乾燥、口角炎、潰瘍、水疱など)の有無をみる。	
		②歯式を正しくとる。	
		③う蝕を診察する。	
		④口腔粘膜の異常(舌、頬粘膜、口蓋:発赤、乾燥、腫瘤)の有無をみる。	
		⑤口腔清掃状態をみる。	
		⑥咬合状態の異常の有無をみる。	
		⑦歯周ポケットを測定する(指導医の指示で実施)。	
		⑧歯の動揺度を測定する。	
10	指導医へ報告	診察結果を報告する。 指導内容を確認する。 指導内容は、患者の障害と背景を理解したうえで検討する。	
11	患者教育と治療への 動機づけ	①診察結果を説明する。	
		②患者教育を行う。 患者の障害と背景を理解し、患者・保護者・職員へ指導を行う。 良いところを見つけ、陽性強化(ほめるなど)する。 問題点を指摘し、改善法を提案する。	
評価合計点			/21